

国際刑事警察機構への台湾の参加を



特別寄稿

台北駐日経済文化代表処横浜分処
張淑玲処長

第92回国際刑事警察機構(INTERPOL、インターポール)年次総会が4日から7日に英国のグラスゴウで開催されている。

ICPOは各国の刑事警察機関による連携と情報交換を通じて、国際テロ組織の活動など凶悪な国際犯罪の抑止・排除を目指す国際機関である。世界各国がICPOに参加することは、当然、国際犯罪を抑止・排除するうえで極めて有効であろう。

米国在台協会(AIT)台北事務所のスンドラ・オウドカーク前所長は「台湾は私が生活した中で、最も安全なところだった」と絶賛した。生活費比較サイト「ナンベオ」(Numero)による台湾の安全性指数は、アンドラ、アラブ首長国連邦、カタールに次いで安全性は4位。犯罪率では4番目に低い。また、国際交流コミュニティの「インターネーションズ」(Inter Nations)が発表した、海外駐在員にとって住みやすい、働きやすい海外居住地をまとめた2023年度調査によると、台湾は海外駐在者が選ぶ最も住みやすい働きやすい国・地域の5位にランクされ、生活クオリ

ティーは2位、安全性は8位、ヘルスケアについては首位だった。台湾は優秀な法執行能力を有しているとはいえ、刑事事件捜査の過程において、味方となる警察当局との協力が極めて重要であるほか、リアルタイムの情報交換こそ国際犯罪撲滅のカギとなる。しかし、インターポールに加盟できない状態であるため、台湾は迂回して国際協力を求めるしかなく、差し迫る必要な情報を何とか取得できたとしても、その時にはタイムリミットを逃してしまつこともある。このような手詰まりの状況は、往々にして国際犯罪に悪事を働かせるより多くの時間を与えてしまい、世界の損失はより重大なものとなる。

犯罪撲滅は世界共通の普遍的な価値と概念であり、我々はより安全な世界を目指すために、共に協力していくことを心より願っている。日本をはじめ世界各国と協同して国際犯罪抑止に向けた課題に取り組み、貢献していけるものだと信じている。安全な世界に向けて、台湾とICPOがともに手を携えて協力できることを願っている。



日本ハムから指名のあいさつを受けた東海大相模高・藤田琉生投手
—5日、相模原市

日ハム2位指名の東海大相模・藤田投手

球速アップ誓う

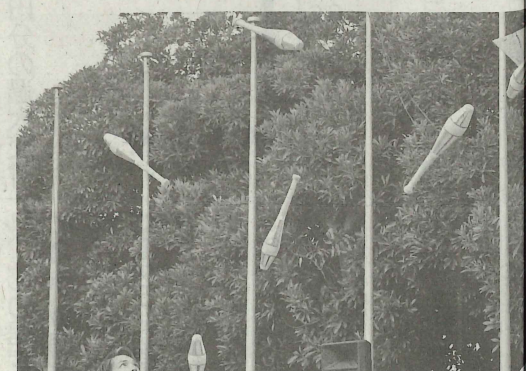
日本ハムからドラフト2位指名を受けた東海大相模高・藤田琉生投手が5日、相模原市の同校で、日本ハム・大淵隆スカウト部長(54)らの指名あいさつを受けた。198センチの長身から繰り出される真っすべは最速150キロ。将来的には平均球速を152キロから154キロくらいまで持っていきたい」と、さらなる球速アップを誓った。

「唯一無二の投手」と語る左腕は、唯一無二の強みとしてフィールディングを挙げ「大きい選手は不器用だ」という固定概念を覆したいと思つて今まで練習してきた」と力を込める。

中学まではスローイングが苦手だったというが、5級先への練習や投内連係でのバント処理などで徹底的に練習を重ね、課題を克服した。

(児嶋基、写真も)

横浜の兄弟 美技に歓



小2女兒に抱き付く元担任に有罪判決
傍聴動員の対象裁判

横浜市の市立小学校で小学2年の女兒に抱き付くなどしたとして、不同意いせつの罪に問われた元担任教師の70代の男に、横浜地裁(菅野裕希裁判官)は6日、懲役1年6月、執行猶予3年(求刑懲役2年)の判決を言い渡した。横浜市教育委員会が職員を大量動員して一般の傍聴を妨げた問題の対象事件だった。

菅野裁判官は判決理由で、ドアを閉めて2人きりになった教室で、当時7歳の女兒に抱き付いたと指摘。女兒に口止めしたのは後ろめたさがあったためだとし「性的な意味合いが強い行為だと分かった上で行

東日大 ニュ
南極観測隊
サンブルな
東京農大
東京農大
博物館(東京都
で、日本の南極
事を紹介する企

が増えてくるが、いまや高齢

した。